

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	令和 7年 10月 20日		～	令和 7年 10月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	令和 7年 10月 20日		～	令和 7年 10月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 12月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	低学年に合わせた、様々な体験活動を行っている	・新規の活動を検討し取り入れ、児童の発達に合わせた集団、個別での活動を毎日取り入れて成功体験を増やし、自己肯定感を高める支援に取り組んでいる。 ・長期休業中は課外活動を取り入れて体験ができる機会を多く設けている。	・身体を動かす活動を積極的に取り入れ、体育館、公園、運動器具を使用した活動を取り入れていく。 ・将来を見据えて、日常生活や社会体験を計画的に取り入れて支援の充実を図る。
2	療育課題が豊富である	・児童の特性、発達に応じた療育課題を提供し「出来ることを増やす」ことができるように支援している。 ・実生活での「できた」を意識した内容になっている。	・マンネリ化を防ぐために定期的に療育課題の見直し、入れ替えを実施する。
3	安心できる環境	・一人で落ち着けるスペースを確保し、気持ちを切り替える環境を整えている。	・より安心して気持ちを切り替えられる支援を充実させていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングを実施していない。	・職員が養育技術の知識を獲得できるような研修に参加できていない。	・ペアレントトレーニングを実施するために計画を立てて進めていく。 ・職員の研修を充実させていく。
2	インフォーマルなアセスメントと標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントの組み合わせを強化していく。	・インフォーマルなアセスメントだけでは職員の主観が影響を与えずいていないか評価の客観性や一貫性についての課題。	・日々の観察や支援記録、保護者からの聞き取りによるインフォーマルなアセスメントに加え、標準化されたアセスメントツールを計画的に活用していく。
3			